

1. 授業の概要(ねらい)

つい10年、20年前は、ちょっと大きな駅で電車を降りると、駅前に銀行の支店がずらりと並んでいたものです。ところが、いま、例えば、帝京大学の最寄りの駅、多摩センターや聖蹟桜ヶ丘の駅前で、銀行の支店を探そうとしても、なかなか見つかりません。銀行の支店はほとんどなく、ようやく見つけたら、ただ、ATMのコーナーだったというのが実情でしょう。

八王子のような大きな駅でも、似たようなものです。

そうです。いま、銀行の支店がどんどん消えています。

支店が減る以上、行員の数も減らさざるをえなくなります。だから、銀行の採用人数そのものが、減ってしまいました。

どうしてそんなことになったのか？

銀行は、というより、金融業界は、いま、大きな変革期を迎えています。

まず、銀行がもうからなくなってしまうのです。

いま、私たちが銀行に預金をして、利子が0.001%ぐらいですから、利息など、ほとんどつきません。

銀行としても、企業に融資する金利も低くなるわけですから、利益が出なくなりました。

インターネットによって、ネットバンキングも当たり前になってきました。

みなさんが知っている大手の銀行の名前を挙げてみてください。

みずほ、三井住友、三菱UFJの3つは、すぐに出てくるでしょう。りそなの名前も挙げるでしょう。

それで、4つです。

しかし、1990年代には、日本の銀行はもっと数があり、都市銀行と呼ばれる大手銀行だけで13行もありました。

都市銀行だけではなく、長期信用銀行、信託銀行と分類される銀行もありました。

1980年代、日本の大手銀行は世界最強をうたわれ、世界の銀行のトップ10のうち、6、7行を日本の銀行が占めていました。

それがいまはすっかり様変わりし、大手銀行は冒頭に挙げた4行に減ってしまいました。

長期信用銀行はなくなり、信託銀行も数が減りました。

たかだが、20年、30年のうちに、何が起きたのでしょうか。

日本の金融機関は、激動の時代に巻き込まれています。

激動の時代、金融機関の過去、現在を確認し、未来を展望します。

2. 授業の到達目標

日本の金融界は、この20年ほど、まことに激しく動きました。いまでも、その激しさは、収まったわけではありません。

就職に関連して言えば、日本の銀行は、採用する学生の数を、びつくりするほど、減らしています。

それは、金融界の激しい動きの延長線上にあります。

日本の金融界は、いったい、どうしてそんな激しい動きに陥ったのか。

それをしっかり理解し、日本の金融の現在を把握するのが、講義の目標です。

3. 成績評価の方法および基準

講義形式ではありますが、質問をたくさんします。積極的に答えてください。

万一、オンライン講義になった場合は、毎回、課題を出します。解答の提出で、出席とします。

講義の最終回には講義内試験をします。

そうしたものの総合評価で、成績を決めます。

4. 教科書・参考文献

教科書

とくに定めませんが、新聞、テレビ、あるいはネットでもかまいませんが、日々のニュースを、しっかりウオッチしてください。

5. 準備学修の内容

金融の動向も、経済だけではなく、政治、国際、社会の動きからも、大きな影響を受けます。

君たちは、その中で、生きています。

金融のニュースは、とっつきにくいかもしれませんが、日々のニュースに関心を持ってウオッチしてください。

6. その他履修上の注意事項

第一に、この講義は、日々の経済ニュースをベースにして進めていきたいと思います。

シラバスを掲げておきますが、なにか大きなニュースが起きたら、それをテーマにすることがあります。

そのため、この講義は、必ずしも、シラバス通りに進むわけではありません。

シラバスは、あくまで目安と考えてください。

第二に、この講義のためのノートを一冊、用意してください。

小さなノートではなく、A4サイズのノート、いわゆる大学ノートを用意してください。

講義の内容を、しっかりと、ノートに取ってください。

講義では必ず、鉛筆(シャープペンシルでもかまいません)と消しゴムを持って来ててください。

7. 授業内容

【第1回】 この回はガイダンスです。

日本の金融の現状をざっくりと説明し、日本の金融を勉強する意味を話します。

【第2回】 日本の銀行は、1980年代には、世界最強と見られていた。

それが、バブル崩壊後、一時、多くの銀行が倒産の危機に陥る。いま、ようやく回復して落ち着いてきた。

この20年を簡単に振り返る。

- 【第3回】 金融産業とは何か。
日本の金融は、次のように分類される。
・ 3大銀行 プラス1
・ 信託銀行
・ 旧長期信用銀行
・ 地方銀行
・ 信用金庫、信用組合
・ 政府系金融機関
・ 郵便局
・ 農協
その違いを理解する。
- 【第4回】 日本のメガバンク3行と、準メガバンク1行 その1
日本の大手銀行は、1990年前半まで、都市銀行と呼ばれる13行が活発に営業していた。
それは、
第一勧銀、富士、住友、三菱、三和、東海、三井、太陽神戸、協和、北海道拓殖、大和、さいたま、東京
一ーの13行だ。
それがいま、3プラス1の4行になった。その変遷を学ぶ。
- 【第5回】 日本の3大銀行プラス1 の変遷 その2
(4)の続き
- 【第6回】 財閥系銀行
上記の13行のうち、富士、住友、三菱、三井は、旧財閥系銀行と呼ばれる。
財閥とは何かを勉強する。
- 【第7回】 長期信用銀行の破綻
日本には、かつて、長期信用銀行と呼ばれる銀行があった。
それは、日本興業銀行、日本長期信用銀行、日本債券信用銀行の3行だ。
長期信用銀行は、戦後の日本企業を金融面から支えた銀行だった。
いまはみな、姿を消し、あるいは、姿を変えた。
長期信用銀行の役割を理解する。
- 【第8回】 日本銀行とは何か？
日本銀行とは、何をやる銀行か。どこにあるか知ってますか。
日本銀行は、いま、日本の金利をマイナス金利にしている。
日本銀行の役割を理解する。
- 【第9回】 円ドル相場とは何か？
金融は、日本国内だけで仕事ができるわけではなく、
アメリカや欧州、中国といった世界各国、地域と、取り引きをしなくてはならない。
円を使っているのは日本だけだから、アメリカと取り引きするには、ドルと交換する必要がある。
それを外国為替と呼ぶ。
外国為替市場は、どこにあるのだろう。何をしているのだろう。
外国為替を理解する。
- 【第10回】 証券会社の変遷
銀行ではないが、証券会社も、金融機関と呼ばれることがある。
かつては、野村、大和、日興、山一が4大証券だった。
いまは山一が消え、野村、大和、日興の3社態勢になった。
証券業界の変遷を見る。
- 【第11回】 銀行が倒産した日
1997年11月、日本のサッカーが初めてワールドカップへの出場を決めた日、
北海道拓殖銀行が倒産した。
たまたま同じ日になったものだが、おかげで、当時の新聞のトップニュースは銀行の倒産で、
サッカーの扱いは極めて小さい。
北海道拓殖銀行に続いて、同じ11月に山一証券が倒産した。
この11月、日本人は、戦後初めて、銀行も証券会社も倒産するということを知った。
そのときのことを振り返る。
- 【第12回】 銀行はなぜ倒産するのか。前回からの続きです。
かつて、銀行は倒産するはずがないと思われていたが、
1997年11月の北海道拓殖銀行の倒産に象徴されるように、90年代後半には、銀行の倒産が相次いだ。
直接の原因は、バブル崩壊だ。
銀行は、なぜ、倒産するのか。そのメカニズムを考える。
- 【第13回】 低金利時代からマイナス金利へ
銀行に預金すると、利子が付きます。
1980年代までは、預金の利子は、5%—6%ぐらいありました。
利子が10%という時代もありました。10%もあると、退職金を1000万円もらった
として、全額を銀行に預けると、1年でなんと100万円も利子をもたらえたのです。
その時代は、金利生活も可能でした。
では、いまの利子が何%ぐらいか知っていますか？
0.001%ぐらいしかありません。
これを低金利と呼びますが、最近、日銀がマイナス金利を打ち出しました。
どうしてそんなことになったのかを学びます。

【第14回】 銀行の仕事の変遷
金利が5%も6%もあったころと比べ、いまの低金利時代には、銀行の仕事の内容も大きく変わりました。
利子が高いころは、ほうっておいても、お客さんがお金を預けに来てくれました。
いまでは、銀行に足を運ぶお客さんが減りました。
銀行の仕事も変わってきました。
銀行は、低金利時代になり、お客さんが減ってしまいました。
また、インターネットで取り引きをするインターネットバンキングも普及してきました。
そうすると、銀行は、支店がだんだん不要になってきました。
実際、最近、駅の回りでも、銀行の支店がどんどん減っています。
そうすると、銀行の新規採用が減り、これは、就職戦線にも大きな影響を与えます。
その現状を理解します。

【第15回】 半年の内容を踏まえ、最後に、まとめと講義内試験を実施します。